

# 我々の内に光はない

古 田 晴 彦

キリスト教学校の卒業アルバムなどで、「地の塩、世の光になりなさい」というようなメッセージに時々出会います。「頑張って、そのようになりなさい」という努力目標です。聖書を読むと、イエス様は「あなたがたは地の塩である、世の光である」と断言しておられます。(マタイ 5:13-14) 努力目標としてこれを言われたわけではありません。自分自身の在り方を見れば、とてもそのような者ではありません。にもかかわらずイエス様は、宣言しておられます。弱さ・失敗・過ちに満ちた私たちですが、イエス様はそのような私たちに期待し、送り出すことをやめません。

かなり前ですが、全国の私立学校のスクールマーク(校章)の意味を調べたことがあります。努力目標を掲げたものは多数ありました。「明日はもっとよくなろう」「一日一善」のようなものです。皆さんは、関西学院の新月徽に二つの意味があるのを御存知ですか？ 一つ目は「成長」です。新月が満月に向かうように、今は欠けの多い不完全な私たちであるが、円満な人格の完成を目指して歩みたいという願いです。これには努力目標に通じるものもあると思います。二つ目は「反射」です。人間は傲慢で自己中心的な存在である。たとえ神様の御用をしているときでも、「自分が」「自分が」という思いに支配される。「我々の内に光はない」。これは、人間の罪性の自覚です。月は自ら光を発することができない。太陽からの光を反射することで暗い夜を明るく照らしている。我々も、神からの光(恵み)を反射することによって、暗い世の中に光を照らす存在になりたいという祈りです。

これは努力目標ではありません。祈りです。新月徽は私たちが人間というものをどのような存在としてとらえるのか、人間理解にまで踏み込んだ意味を有しています。このようなスクールマークを持つ学校はほとんどありません。価値のない者を、神が用いられる。その価値のない者を生かすために、イエス・キリストは十字架にかかれた。関西学院で学ぶ皆さんが、心のどこかでこのことを覚えておいてもらえれば嬉しく思います。

「主なる神は、土の塵ちりで人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」(創世記 2:7)

(高等部教諭)